

新潟県中越大震災時における 同行避難動物への対応

**Response to Animals Evacuated with their Owners
During the Chuetsu Earthquake**

避難所及び仮設住宅における受け入れについて

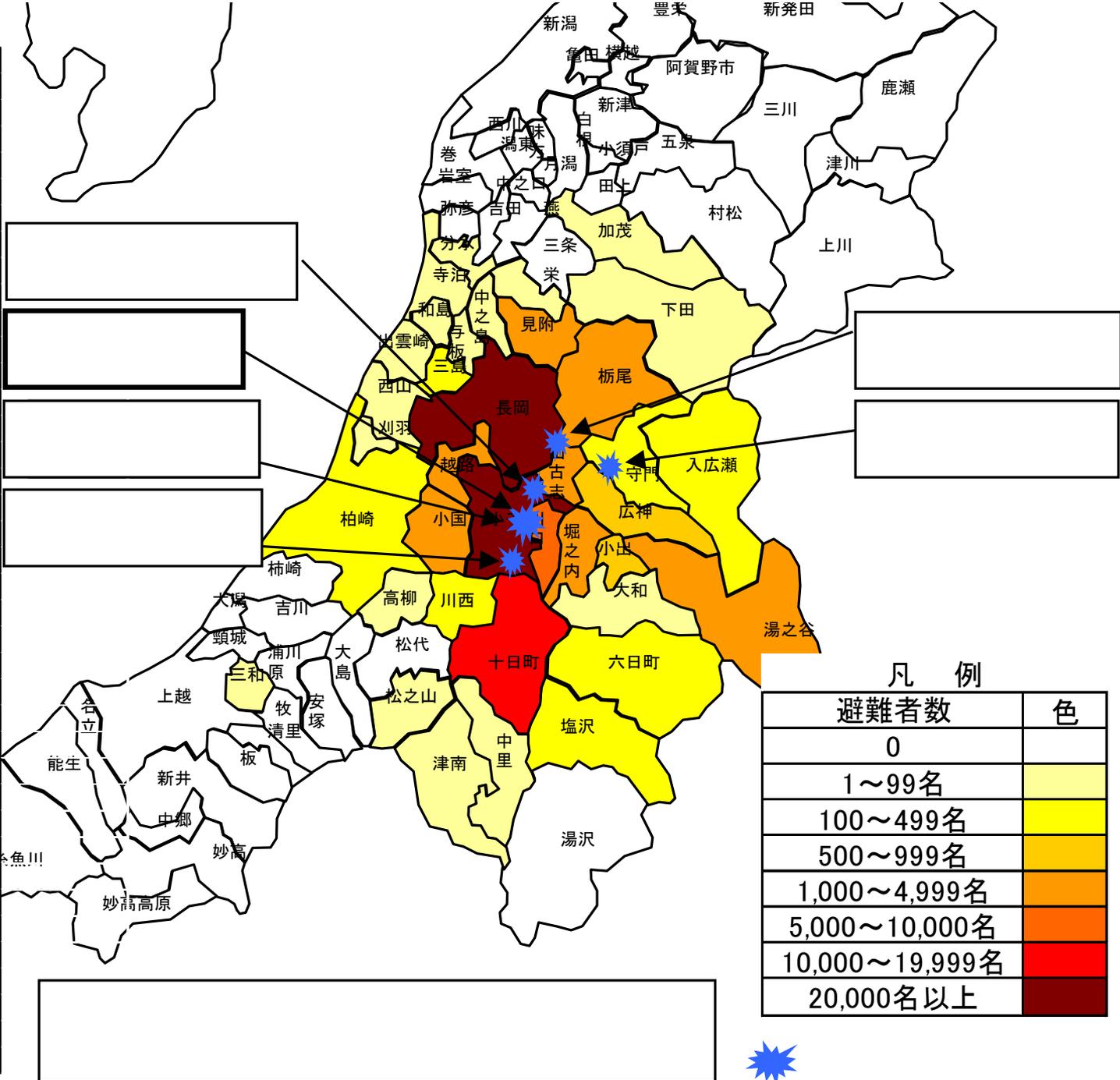
Allowing Animals into Evacuation Areas and Temporary Housing

新潟県動物愛護センター 遠山 潤

Jun TOOYAMA

Niigata Prefecture Animal Rights Protection Center

市町村名	避難者数
長岡市	35,415
小千谷市	28,807
十日町市	13,052
川口町	5,692
見附市	3,472
越路町	2,257
山古志村	2,165
小国町	1,558
堀之内町	1,100
栃尾市	1,030
湯之谷村	1,000
小出町	665
広神村	571
守門村	479
入広瀬村	397
川西町	353
柏崎市	236
三島町	140
塩沢町	131
六日町	116
出雲崎町	81
中里村	63
大和町	59
西山町	41
中之島町	39
和島村	35
栄町	30
刈羽村	22
下田村	18
分水町	17
寺泊町	16
津南町	16
与板町	15
加茂市	10
松之山町	7
高柳町	3
三和村	3
計	99,111



凡例

避難者数	色
0	白
1~99名	淡黄
100~499名	黄
500~999名	橙黄
1,000~4,999名	橙
5,000~10,000名	赤橙
10,000~19,999名	赤
20,000名以上	深赤



被害状況(長岡市国道17号)



被害状況(川口町JR)



被害状況(魚沼市高速道路)



被害状況(山古志村)



山古志村からの全村避難

10月25日



被害状況

人的被害状況(人)

死者	重症	軽傷
68	632	4,163

家屋の被害状況(棟)

地滑り、斜面崩壊 3,800か所

全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	合計
3,175	2,167	11,643	104,619	121,604

避難状況(最大時)

避難者数	避難所設置数
103,178人	約500か所

災害救助法適用市町村数
10市27町17村

被災動物数(推計)(匹)

犬	ねこ
2,009	2,959

* 全半壊した17,000戸で飼育されていた動物数

震災発生直後からの対応 その1

- 10月23日 地震発生
- 10月25日 動物保護管理センター救援体制確保
センターでの治療活動、ペットフード等提供、
飼育備品貸出、保護・預かりの開始
市町村へ通知
- 10月26日 動物関連支援活動の内容をプレスリリース
- 10月27日 新潟県中越地震動物救済仮本部立ち上げ
(財団法人日本動物愛護協会内・東京)
山古志村での現地活動開始
(空路、後に陸路も)
県獣医師会無料診療開始
- 10月31日 獣医師会に被災動物の一時預かりを要請
- 11月16日 動物病院での被災動物の一時預かり開始

避難所での支援

- 避難所への物資提供

市町村災害対策本部に、支援メニューがあることをきちんと伝え、避難所に情報を伝える

支援メニュー

- * ペットフード、ペットシーツ、糞処理袋
- * ケージの貸し出し
- * 一時保管

- 飼育相談窓口の開設

保健所や動物保護管理センターが被災動物の飼育に関する相談に対応していることを広報

被災動物支援についての基本的な方針

- ペットも家族の一員であり、被災動物の支援活動は、被災者の心のケア、生きる力となる
- できる限り早期に、被災者とペットと一緒に暮らせる環境をつくる
- 仮設住宅、災害復興住宅でも希望する者はペットと暮らせるようにする

避難所の様子(長岡市)



避難所の様子(長岡市)

長岡大手高校駐輪場



被災動物支援事業を知らせるチラシ(長岡市)

平成16年1月26日
長岡市 発行

平成16年長岡市中核地域に係る被災動物の支援活動について

平成16年長岡市中核地域による被災動物の支援を行っています。
被災された方でのねこなどの飼育に関してお困りの方は、相談をお受けし
ています。

1. 被災動物の支援のための物資の提供
県と新潟県に被害してある動物飼養の支援物資を長岡市畜産本部を通じて
提供しています。 支援物資：ペットフード、排泄物処理剤
2. 被災地の動物に対する支援
長岡、中核、被災動物保護管理センターに動物飼養相談所を設置し、飼育
所にいる動物の飼育・健康相談、治療動物を実施します。
3. 動物の一時的取り扱い事業
被災動物保護管理センターでは、被災により飼養できなくなった動物を一
時的に預かり保護管理しています。
保護対象動物
- 避難所生活で様々な理由により一掃に連れられなくなった動物
- 被災により家に居ることができなくなり一時的に預けなければなら
なくなった動物
- 被災により飼養できなくなった遊歩動物
なお、預かりは、被災地域の動物で逃げ遅れ取りに連れてくる方に限定
します。また、動物保護管理センター自体も被災しており、すべてが動物
を預けられない場合もあります。

(相談窓口)

・中核動物保護管理センター	TEL 0258-24-1116
・長岡地域復興局健康福祉課(生活福祉課)	TEL 0258-22-4924
・被災動物保護管理センター	TEL 025-730-4821
・十日町地域復興局健康福祉課(生活福祉課)	TEL 0257-37-2470
・被災動物保護管理センター	TEL 025-272-4143

◎「注」動物保護管理センターでは、動物の飼育は受け付けておらず、被災動物であ
り、必要に応じて動物の保護を委託しています。

からの
お出で
め、認定日
次の認定
ものを持参の
さい
記
格者証
認定申告書
の氏名、住所を
許証、国民健康
いことはハロー
TEL0258-32
お問い合わせ

避難所の様子(小千谷市)

10月29日



避難所の様子(小千谷市)

10月29日



避難所の様子(小千谷市)

10月29日

健康情報(小千谷市健康センター)平成16年10月26日

診療をやっている医療機関

- ・谷口医院
- ・北村医院 090-3759-0128(北村医師直通)
- ・小千谷病院
- ・沈田医院
- ・魚沼病院
- ・所貝医院
- ・さくら病院

しびらの間休診

- ・中村医院
- ただし日出調剤薬局は可能。薬の人は健康手帳持参。
- ・小林整形外科

仁田原ニカ医院・根元整形外科・さくら医院
は医師が総合体育館に112対応して11打

日赤救護開設の避難所 医師常駐

- ・小千谷小学校(本部) 助産師も11打
- ・総合体育館(大変困難しています)
- ・東小千谷体育場
- (小千谷病院・魚沼病院は救急車優先)
- 急病・けが・やけどはまずは日赤救護所へ

健康上の注意

1. 市外の避難所でエコノミー症候群で死者の例がありました。(水分不足と運動不足により血栓が生じ死に至る。飛行機のエコノミークラスに乗る起る病気)

- ★予防のために
 - ① 水分をしっかりとる。血のドロドロ状態を防ぐ。
 - ② 体操したり、歩いたりして体を動かして、血めぐりをよくする。

2. 断水のために衛生状態が悪くなっています。

- ★できること
 - ① 手洗い トイレの後・食事前は必ず洗う
 - ② うがい 食事前に2-3回
- あかばウエットティッシュも効果的

3. 環境整備

- ★ペットは屋外へ ペットと人間は同一空間にはしない
 - ★禁煙 屋外で吸う
- 避難所では特に

小千谷市教育委員会

センター情報

七(しばら)

新潟空港
TEL 83-0110
小千谷市役所
TEL 83-3511

避難所に併設されたペットハウス(長岡市) (獣医師会、動物愛護協会との連携)



11月5日～12月5日、長岡市新産体育館に設置

ペットハウスで飼い猫と



動物同伴テント(自衛隊が設営)



人と動物専用テント(後方は現地動物病院)



犬と同居する被災者

11月3日～12月5日、小千谷市に設置

震災発生直後からの対応 その2

- 11月18日 仮設住宅飼育支援活動開始(要請文通知)
市町村災害対策本部に地元保健所から働きかけるよう指示
- 11月22日 山古志村での活動を給餌から保護収容に変更
- 11月24日 仮設住宅入居開始
- 12月20日 避難所の避難者ゼロに
- 2005年 新潟県中越大震災動物救済本部を設立
1月19日 (新潟県・県獣医師会・県動物愛護協会)
仮本部から業務引継
- 2月1日 被災動物の繁殖制限手術補助事業開始
- 6月29日 新潟県中越大震災動物救済本部解散
新潟県動物愛護協会事業引継

仮設住宅への対応

- 県から市町村災害対策本部に仮設住宅での動物飼育を認めるよう要請文を出した
- 地元保健所からは災害対策本部だけでなく、動物担当課、住宅担当課にも直接働きかけを行った
- 仮設住宅でのトラブル防止のため、飼育ルールを定め、マナーを守るよう保健所、獣医師会、動物愛護協会スタッフが全面的にサポートする旨を伝えた。
- その結果、すべての市町村で仮設住宅での動物飼育が認められた

仮設住宅での動物飼育支援

仮設住宅での動物飼育のルール

- 動物は、原則として室内で飼育する。
- ワクチンを接種する。 **無料実施 12月**
- 繁殖制限手術を受ける。 **補助事業 2-3月**
- 動物に飼育者の連絡先を付ける。
- 飼育者の会を作る。
- 専門家のサポートを受ける。

仮設住宅にお住まいのペットの飼い主さんへ



このたびは、中越地震で被災され、お見舞い申し上げます。

中越動物保護管理センター（長岡保健所）では、仮設住宅におけるペットとの生活をより良いものにするために、仮設住宅でペットを飼育されている方々の名簿作成と飼育相談を実施します。

この事業は、仮設住宅に居住するペット飼育世帯を戸別訪問してお話を伺わなければならないことから、新潟県獣医師会と新潟県動物愛護協会の協力を得て実施することになります。

あなたのお宅には、12月 日（ ）午前・午後 時頃 伺います。

ご都合が悪い場合は、あなたの地区の担当者（ ）電話：（ ）までご連絡ください。

なお、今回実施する戸別訪問を個人的な理由でご辞退される場合は、中越動物保護管理センターまでご連絡ください。後日、中越動物保護管理センターが直接お話を伺いにあがります。

動物愛護協会スタッフは蛍光緑色の協会ジャンパーを、獣医師は名札を付けて、皆様のお宅を訪問し、飼い主さんのお名前、連絡先等を聞かせていただき、併せて、動物の写真（犬台帳用）を撮らせていただきます。

なお、飼い主さんの申し出により、動物の健康相談や伝染病予防ワクチンの接種も行えます。また、仮設住宅でのペット飼育支援策としてケージ等ペットグッズの貸出しも行っておりますので、希望される方は、中越動物保護管理センターまでお申し込みください。

長岡保健所 中越動物保護管理センター（新潟県動物愛護協会中越支部）

仮設住宅動物飼育支援策アンケート

氏名：

飼育動物：

仮設住宅住所：越路町

連絡先（電話番号）：

アンケート（下記のサービスは全て無料です。該当する番号に○印を付けて役場に提出してください）

- 1 犬・猫の伝染病予防ワクチン注射（12月中。下記申込書により動物病院で受けてください。）
- 2 犬・猫用名札の配布
- 3 動物飼育・健康相談
- 4 ペットケージ・ペットサークル等貸し出し（犬・猫用/数量限定。お早めに。）
- 5 猫用トイレ配布（数量限定。お早めに。）
- 6 犬・猫用ペットフード配布（動物愛護協会中越支部（34-1416）に事前連絡してください）
- 7 上記に挙げた団体等による支援サービスを希望しない。

切り取り線

仮設住宅飼育動物 伝染病予防注射申込書（平成16年12月中有効）

氏名

（ペット： 犬 ・猫 ）

住所 越路町

電話番号

仮設住宅での動物飼育状況

- 仮設住宅は13市町村の3,460戸建設
- 仮設住宅への入居は、2004年11月24日から12月末までに行われた
- 仮設住宅の約1割、333世帯で犬、猫、ハムスターなどが飼われていた
- 2006年4月1日から復興支援住宅への入居開始
- 2007年12月31日仮設住宅退去完了

仮設住宅での飼い主さがし



仮設住宅の状況（仮設で犬と共に）



仮設住宅(外飼い)



仮設住宅(屋内飼い)



仮設住宅(猫 屋内飼い)



仮設住宅(猫 屋内飼い)



新潟県地域防災計画

震災対策編
第3章第33節
「愛玩動物の保護対策」

第33節 愛玩動物の保護対策

参考資料

【関係機関】 県災害対策本部（保健医療教育部）、市町村、公益社団法人新潟県獣医師会、一般社団法人新潟県動物愛護協会

1 計画の方針

災害時には、飼い主不明の動物や負傷動物が多数生じると同時に、多くの住民が動物を伴い避難所に避難してくることが予想される。

県は、動物愛護の観点から、これら動物の保護や適正な飼育に関し、市町村等関係機関や県獣医師会、県動物愛護協会等関係団体と協力体制を確立するとともに、県獣医師会、県動物愛護協会等と「動物救済本部」を設置し、飼い主の支援及び被災動物の保護を行う。

2 飼い主の役割

- (1) 愛玩動物の飼い主は、災害発生時に動物を同伴して避難できるよう、日ごろからケージに慣れさせる等の訓練を行っておくとともに、飼い主の連絡先を記載した名札等の装着、ワクチンの接種及び動物用避難用品の確保

新潟県地域防災計画

県の役割

- (1) 災害初動時のペット用品等所要物資確保に努める。
- (2) 飼い主不明動物、被災地に残された動物の保護を行う。
- (3) 関係団体と協力し「動物救済本部」を設置する。
- (4) 各地域の被害状況、避難所での動物飼育状況の把握及び資材の提供、獣医師の派遣等市町村への支援を行う。

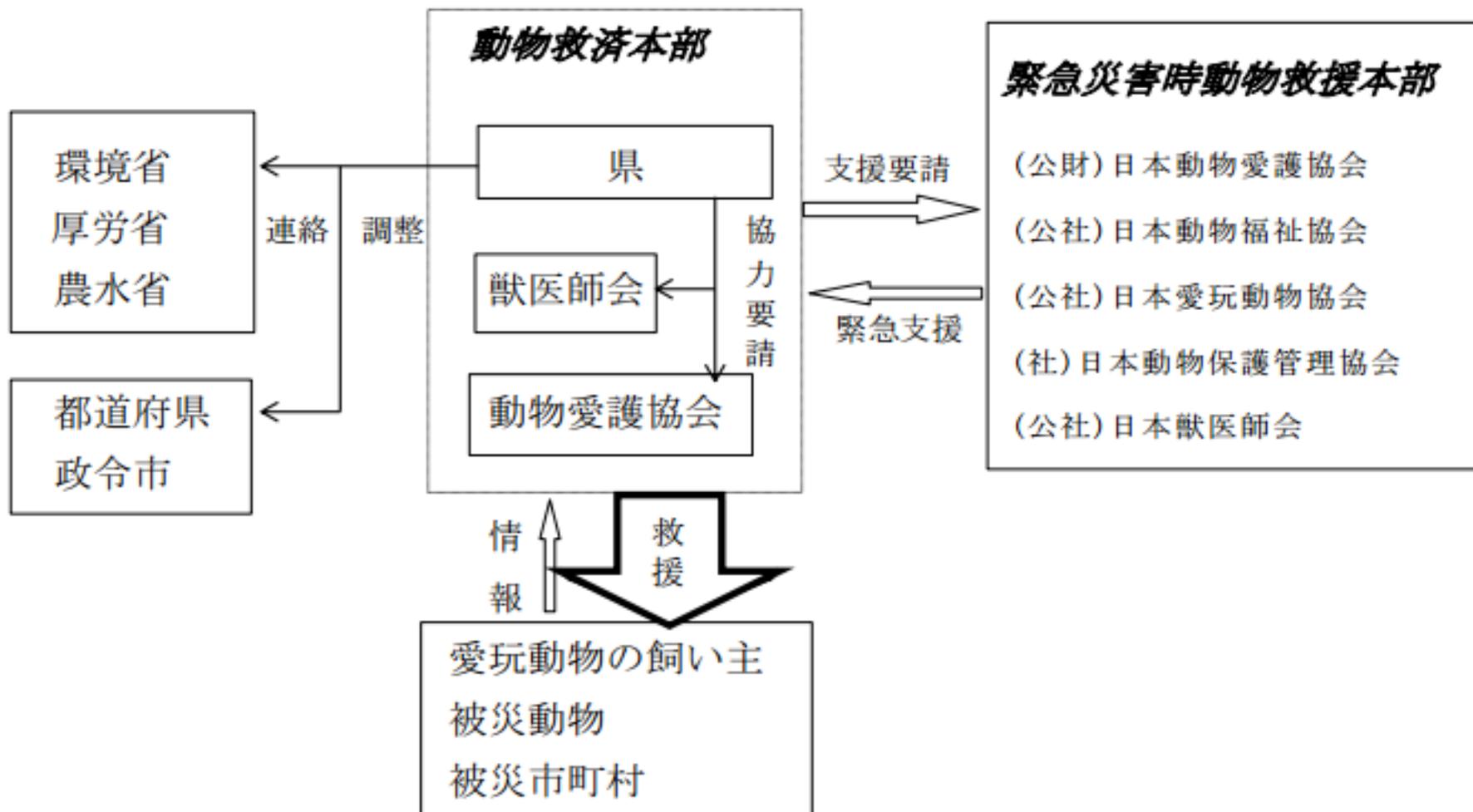
新潟県地域防災計画

県の役割

- (5) 避難所において動物が適正に飼育されるよう支援を行う。
- (6) 避難所から保護施設への動物の受入れ及び譲渡等の調整を行う。
- (7) 国、他の自治体及び緊急災害時動物救援本部への連絡調整及び要請を行う。

新潟県地域防災計画

組織図



新潟県地域防災計画

動物救済本部の役割

(1) ペットフード等支援物資の提供

避難した動物に対し、餌や飼育用品の提供ができるよう市町村の災害対策本部に物資を提供する。

(2) 動物の保護

県の活動に協力し、負傷動物や飼い主不明動物、被災地に残された動物の保護を行う。

(3) 相談窓口の開設

被災地や避難所、仮設住宅等での適正な飼育や動物の愛護、環境衛生の維持のための相談窓口を設置する。

(4) 動物の一時預かり

被災のため一時的に飼えなくなった動物及び迷子動物の一時預りを行う。

新潟県地域防災計画

動物救済本部の役割

(5) 飼い主さがし

被災のため飼えなくなった動物や飼い主がわからなくなった動物の新たな飼い主さがしのための情報の収集と提供を行う。

(6) 仮設住宅での動物飼育支援

仮設住宅で適正に動物が飼育できるよう支援を行う。

(7) 被災動物の健康管理支援

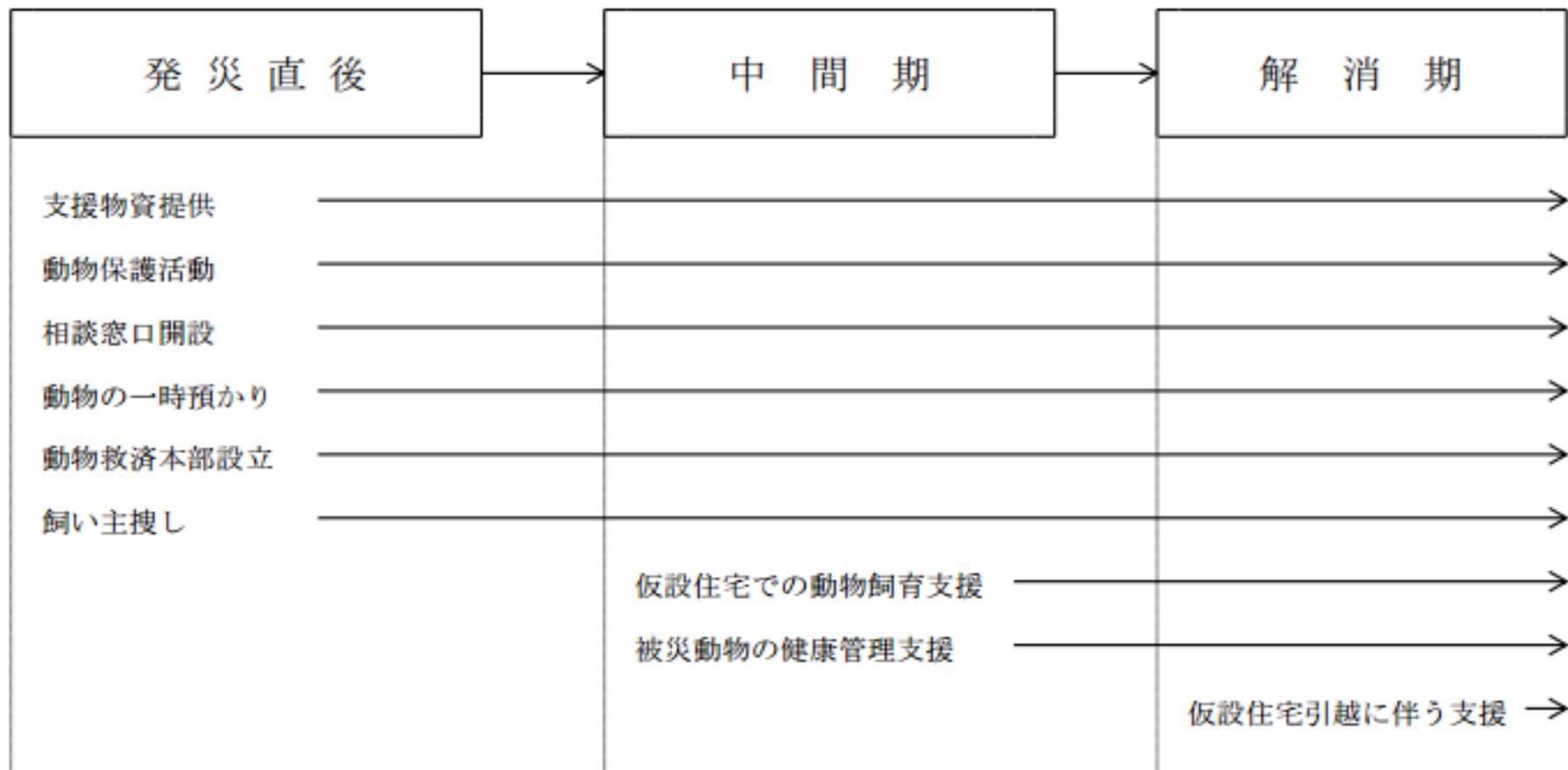
被災動物間の感染症等の発生や拡大を防止するため、健康管理活動を実施する。

(8) ボランティア及び募金の受付・調整・運営

募金の受付と調整、運営を行う。また、必要に応じ、ボランティア等と協働するものとする。

新潟県地域防災計画

時系列の業務内容



柏崎市地域防災計画

地震災害対策編 第1編第3章

第28節

「愛玩動物の保護対策」

(3)市の役割

ア 市は、県と協働し「動物救済本部」に対し、避難所等・仮設住宅におけるペットの状況等の情報提供並びに活動を支援する。

イ 指定避難所を設置するにあたり、動物同伴の避難者を受け入れられる施設を設置するなど住民が動物と一緒に避難することができるよう配慮する。

ウ 避難訓練時には、動物の同伴にも配慮する。

4-2 避難所開設運営マニュアル（市職員向け）

避難所開設運営マニュアル

柏崎市地域防災計画
資料編より抜粋



柏崎

柏 崎 市

平成24年6月

避難所開設運営マニュアル(柏崎市)

1 避難所開設のための市職員、施設管理者、地域コミュニティ協議会、避難者等の業務

避難者等の業務

④ 避難スペースの確保

エ ペットを連れた被災者のある場合は、屋外に飼育場所を設けます。

2 避難所開設業務

② 避難者の受入れ

オ 犬、猫など動物類を室内に入れることは、禁止します。万一のトラブルやアレルギー体質の方への配慮の必要性を説明し、屋外の所定の飼育場所を伝えます。

ただし、屋外で飼育をすることが困難な動物については、別途協議しますので本部（市民課）へ連絡をします。

避難者名簿		【職員記入欄】	
		避難所名	_____
※世帯ごとに記入すること。		受付番号	_____
		記入日	_____
代表者氏名		携帯電話番	_____
住所	_____		
代表者との続柄	ふりがな氏名	生年月日	性別
本人		年 月 日	男・女
		年 月 日	男・女
		年 月 日	男・女
			男
		家屋の被害状況	
		車で避難された方	
		車名 ナンバー 色	

新潟県柏崎市避難所開設 運営マニュアル

避難所で記載する避難者
名簿もペット同伴を想定し
てあります

◎該当する箇所に☑を付けてください。

- ・ペットを連れてきた方

大型犬 匹 小型犬 匹 その他 () 匹

		年	男	
			女	
持病、障害、妊娠などについて特別な配慮を必要とすることなど、_____ありましたらお書きください。				

◎該当する箇所に☑を付けてください。

- ・ペットを連れてきた方

大型犬 匹 小型犬 匹 その他 () 匹

- ・避難所サービスの受け方について

避難所への入所を希望 在宅のまま避難所サービスの利用を希望

◎入所時及び退所時に記入してください。

入所年月日	年 月 日 ()	退所先	<input type="checkbox"/> 自宅	場所
退所年月日	年 月 日 ()		<input type="checkbox"/> その他	電話

動物同伴総合防災訓練





避難場所に移動

ペット避難受付





項目	内容	担当者	備考
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30





A woman wearing a white hard hat and a light grey uniform, standing on the left side of the group.

A man wearing a yellow shirt, a dark cap, and a backpack, talking to a woman in a white uniform.

A man wearing a white hard hat and a light grey uniform, holding a clipboard.

A woman wearing a white hard hat and a light grey uniform, looking towards the man in the yellow shirt.

A man wearing a white hard hat and a light grey uniform, holding a clipboard.

A man wearing a white hard hat and a light blue uniform, standing in the middle of the group.

A man wearing glasses, a white shirt, and khaki pants, standing on the right side of the group.

A wire cage containing a dog, partially visible on the far left.

A wire cage containing several dogs, including a brown dog in a colorful patterned vest, a white dog in a red and white striped vest, and a black and white dog.

A wire cage containing a brown and white dog sitting on a wooden board.

A wire cage containing two dogs, one wearing a yellow shirt and the other wearing a blue and white striped shirt.

A yellow plastic container or bin on the far right.